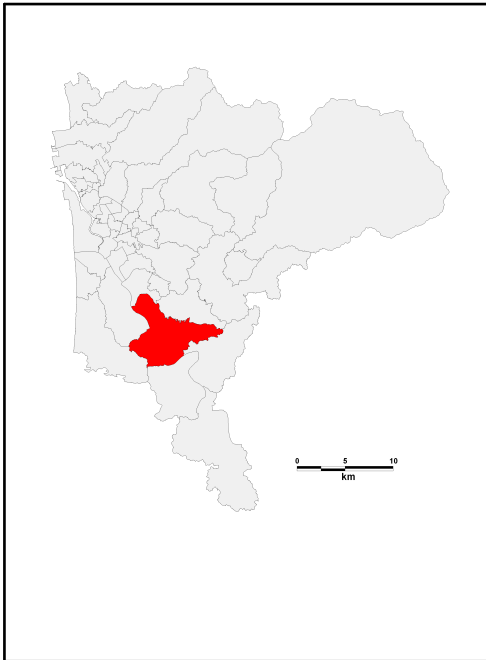


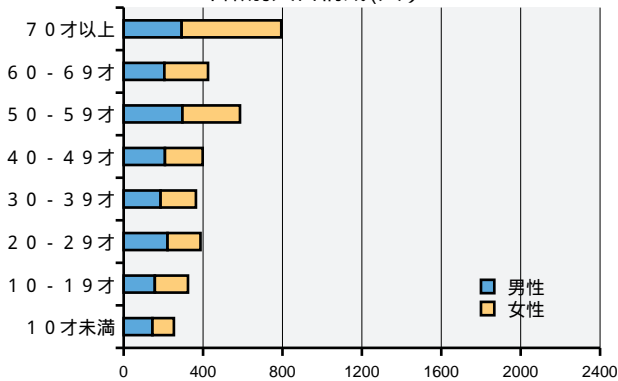
## 位置図



## 1 居住者の現況

人口(人)	3,531
世帯数(世帯)	1,172
65歳以上人口(人)	1,012
65歳以上世帯(世帯)	217
5歳未満人口(人)	124

年齢別人口構成(人)



## 2 建物に関する指標

### 構造別建物棟数(棟)

木造建物	1,880
非木造建物	171
合計	2,051

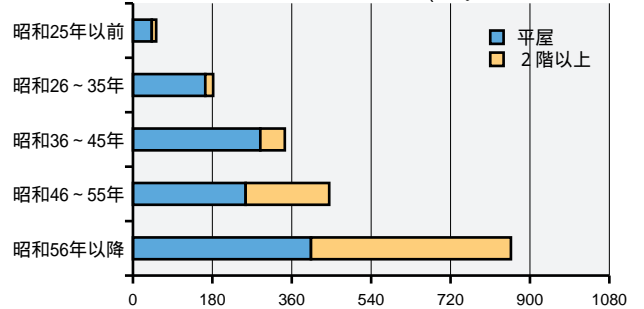
### 建築年代別木造建物棟数(棟)

建築年	平屋	2階以上
昭和56年以降	404	453
昭和46年～昭和55年	255	189
昭和36年～昭和45年	289	55
昭和26年～昭和35年	164	18
昭和25年以前	43	10

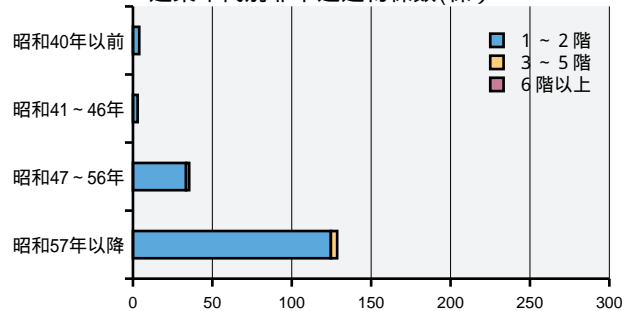
### 建築年代別非木造建物棟数(棟)

建築年	1～2階	3～5階	6階以上
昭和57年以降	125	4	0
昭和47年～昭和56年	33	2	0
昭和41年～昭和46年	3	0	0
昭和40年以前	4	0	0

建築年代別木造建物棟数(棟)



建築年代別非木造建物棟数(棟)



## 自然的・社会的基本指標

雄和地区の北部に位置し、雄物川周辺の低地部と椿川地区などの丘陵～山地部からなる。雄和地区の基幹的公共施設が位置するほか、秋田空港および日本海東北自動車道が通り、交通の要所となっている。丘陵地端部などに急傾斜地等の危険区域が分布する。人口構成としては、高齢者層ほど比率が高い。65歳以上の高齢者層は全体の29%である。建築物の約9割は木造建物である。昭和56年以降の建物は全体の48%を占める。

### 3 急傾斜地等の現況

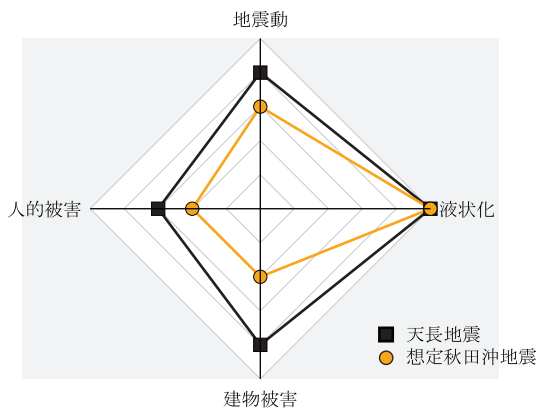
指定種別(箇所数)	箇所名
急傾斜地崩壊危険箇所(20)	山崎山、寺沢、館ノ下、関田、堤根、地張山、椿川字中村、安養寺、平脇、水沢、槐下他
なだれ危険箇所(23)	大又、山崎山、平沢字水沢、大沢口、館ノ下、椿川字中村、平脇、関田、堤根、妙法他
地すべり危険箇所(1)	水沢
土石流危険渓流(21)	安養寺沢、関田沢、館ノ下沢、糠塚沢、寺沢沢、上の沢、上大部沢、水沢沢、大又沢、長者屋敷沢、堤根の沢他

### 4 地震被害に関する指標(地震被害想定結果)

#### ■ 被害想定結果一覧表

	天長地震	想定秋田沖地震
平均震度	6弱	5強
液化化危険度	ランク5	ランク5
木造建物大破数(棟)	177	36
非木造建物大破数(棟)	7	3
死者数(人)	15	2

被害想定結果レーダーチャート



#### レーダーチャートの見方

このレーダーチャートは、地震被害想定調査の主要な結果に基づいて、各項目毎に最も危険度が低い場合を1、最も危険度が高い場合を5として点数化してグラフに表したものです。グラフのひし形の面積が広いほうが総合的な地域の危険度が高いことを示しています。

#### 地震時危険要素

天長地震を想定した場合、平均震度は6弱となる。雄物川に沿った低地部で広範囲に液化化する可能性がかなり高い。建物の大破被害は180棟程度発生し、死者が15人弱発生する想定となる。

想定秋田沖地震では、平均震度は5強となり、雄物川に沿った低地部で広範囲に液化化する可能性がかなり高い。建物大破被害が40棟程度となる。死者が発生する可能性がある。

#### 津波に対する危険要素

津波による浸水の危険性はないものと見られる。

### 5 防火・防災施設に関する指標

#### ■ 消防関連施設

消火栓数(箇所)	101
防火水槽(箇所)	45
消防車台数(台)	7
消防ポンプ数(台)	6
消防団員数(人)	103

#### ■ 避難所/避難場所

避難所/避難場所	屋内/屋外	収容人員(人)
別表参照	-	-

#### ■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	河辺消防署
管轄警察署	秋田東警察署
病院数	2
最寄の救急告示病院	秋田赤十字病院
自主防災組織数	19

#### ■ 学校区内の主要な公共施設

施設名	住所
雄和市民センター	雄和妙法字上大部48-1
雄和公民館	雄和妙法字上大部48-1
雄和農村環境改善センター	雄和妙法字上大部48-1
雄和体育館	雄和妙法字上大部95-1

#### 防災上の課題と対策

川添小学校区は、岩見川と雄物川合流点付近から、雄和中心市街地までを含む地域である。学校区内に秋田空港があり、緊急輸送道路である日本海東北自動車道、県道秋田御所野雄和線、および県道秋田雄和本荘線が通るなど、災害時輸送において交通上の要衝となっている。地域の建物のほぼ半数は旧耐震建築物である。人口構成に偏りは少ないものの、若年層ほど構成比率が下がる傾向を示している。65歳以上の高齢者は、全体の29%程度を占めるが、高齢者単独世帯は19%にとどまっている。避難場所(屋外)および避難所(屋内)は、川添地区と石田地区に配置され、避難所の収容可能人員は、全人口の約52%に上る。学校区内の一部の集落(寺沢地区、安養寺川沿いの集落、および水沢地区)は、土砂災害およびなだれ危険箇所に隣接もしくは含まれる。雄物川左岸の下黒瀬地区においては、一時的な避難の方法について地域で検討するとともに、近隣学校区の避難施設の利用についても検討しておく必要がある。地域内の協同・相互補助の意識は高いと見られるが、防災関連の知識および情報の周知徹底を図るとともに、防災訓練等による地域防災活動の活性化支援が有効であると考えられる。

## ■別表. 避難所・避難場所

避難所/避難場所	屋内/屋外	収容人員( 人)
川添小学校	屋内	237
雄和中学校	屋内	281
川添保育所	屋内	202
長者やま荘	屋内	113
雄和サウナグ タミナル	屋内	151
雄和農村環境改善センター	屋内	487
雄和体育館	屋内	364
川添小学校グラウンド	屋外	4,750
雄和中学校グラウンド	屋外	7,100
川添保育所前庭	屋外	1,150
雄和花の森野球場	屋外	6,900
JA新あきた雄和支店駐車場	屋外	2,850
雄和ふれあいプラザ敷地	屋外	1,450
芝野河川敷運動広場	屋外	1,500
秋田県立中央公園	屋外	38,500